三重の力を世界へ

平成26年度(2014)の実績・その1

― 〝教育研究等の質の向上〟に係る状況編 ―

研　究

研究活動の活性化に向けた取組【P５左(4)、P19左①】

●異なる外部調査機関（トムソン・ロイター社とエルゼビア社）による研究分野別強み分析、研究クラスター別強み分析の実施
●「三重大学研究支援事業」の推進
●本学研究施設等の積極的・効果的な活用
●科研費採択率向上にむけた科研費アドバイザー制度等の充実

⇩

◇分析結果の学内諸活動への活用開始
◇研究力ステップアップ支援事業（A）（2件300万円）
　研究力ステップアップ支援事業（B）（3件300万円）
　研究力ステップアップ支援事業（C）（20件700万円）
　国際研究推進支援事業（1件100万円）
　若手研究支援事業（10件400万円）
◇若手研究者の海外研修支援制度
　・38名（教員9 名・学生29 名）の学会発表を支援
◇研究施設等学外者利用率　H25：19% → H26：31%
　・利用料負担金収入　H25：4,385千円 → H26：8,089千円
◇科研費申請率：前年度比より8%増（件数39件の増）

知の支援

知の拠点としての取組【P6 左(6)】

●教員免許状更新講習事業の取組

⇩

◇県内の教員が県内で講習を受けることのできる体制の構築
◇県外からの受講希望者の受け入れ
　・県外からの受講総数80名（全体の約8%）
◇受講者からの評価では、運営面から講習内容において高評価

社会との連携

地域防災事業の推進【P6 右(7)】

●大学と県との連携・協力による組織として「三重県・三重大学　みえ防災・減災センター」の立ち上げ
●「美し国おこし・三重さきもり塾」後継事業
　「みえ防災塾」における地域防災人財の育成
●地域防災活動を積極的に推進できる人財の育成

⇩

◇「みえ防災塾」
　・みえ防災さきもりコース　15名修了
　・みえ防災コーディネーターコース　12名修了
　・みえ防災聴講コース　17名修了
◇専門職防災研修（受講者55名）
◇女性限定みえ防災コーディネーター育成講座（受講者31名）
◇市町防災担当職員を対象とした防災講座（初動期）（参加：27市町、約90名）
◇自主防災リーダー人材育成講座（県内3会場、延べ参加者101名）
◇「美し国おこし・三重さきもり塾」について、文部科学省による事後評価で総合評価Ａを受けるとともに、「美し国おこし・三重さきもり塾」と「美し国おこし・三重さきもり倶楽部（さきもり塾修了者によるネットワーク組織）」が共同で、ジャパン・レジリエンス・アワード（強靭化大賞）2015にて、金賞（教育機関部門）を受賞

教　育

教養教育の組織体制【P4 左(1)】

●全学体制からなる「教養教育機構」の発足
●平成27年度より教養教育カリキュラムを新設
●教学IR（Institutional Research）の拠点とする「教養教育情報室」の新設

⇩

◇全学の教育関係の事項を取り扱う組織として、教育会議及びその下に教養教育専門会議を設置
◇教養教育カリキュラムにおける２つの教育理念
　「自律的・能動的学修力の育成」、「グローバル化に対応できる人財の育成」

修学達成度可視化システムの充実・高度化【P4 右(2)】

●前年度に構築した「修学達成度可視化システム」について、授業評価アンケートシステムとの連携を可能とする改修を行い、運用を開始

⇩

◇教員向け出力画面が作成され、教員においてもWebシステムでの評価結果について容易に閲覧可能
◇各学部や各授業形態における授業アンケートの様子を考察し、課題点と改善・発展策の検討を行い、全学FDにおいて周知

各種支援活動の充実による学生支援体制の強化【P4　右(3)】

●学生の留学支援、経済的支援、課外活動支援への取組

⇩

◇「三重大学学業成績等優秀学生及び交換留学生の授業料免除制度に関する規程」の制定
◇「官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学ＪＡＰＡＮ日本代表プログラム～」：　平成27年度前期（第2期）において学生1名の採用
◇各合宿所への防災グッズの整備
◇健康及び体力増進、競技能力向上を図ることを目的とした各種トレーニング機器を備えた「永井記念トレーニングルーム」の設置

国際化

国際化に向けた取組【P6 右(8)】

●ICT機器を活用した海外大学等との事業の実施
●本学独自の取組みである「外国人教員短期招へいプログラム」の開始
●海外留学支援制度の活用
●地域の国際化支援

⇩

◇医学系研究科の「国費優先配置プログラム」申請者や大学院海外指定校入学試験において、現地と三重大学を結んだテレビ会議システムによる面接試験の実施
◇インドネシア・パジャジャラン大学とのダブルディグリープログラムでは、両大学をテレビ会議システムで繋ぎ、入試面接、留学準備支援、遠隔授業の実施
◇「外国人教員短期招へいプログラム」
　・6か国から8名の教員を受け入れ
　（人文学部：ベトナム、教育学部：ニュージーランド、
　　医学部：アメリカ、工学部：イギリス・インドネシア、
　　生物資源学部：フィジー・インドネシア）
◇海外留学支援制度
　・短期派遣（双方向協定型）プログラム1件、短期派遣（短期研修・研究型）プログラム11件の採択（平成25年度：4件）
◇本学留学生15名が四日市高校を訪問し、約50名の生徒と英語を使った交流会を実施

附属病院

附属病院における取組【P７左(9)】

●専門医研修、地域医療研修の充実
●学生研修医教育の取組
●医療の質の向上と診療機能の強化
●三重県全体の救急医療体制の充実
●発展途上国の医療支援
●病院収益の増収に向けた取組の実施

⇩

◇「専門医研修支援センター」の設置
◇地域医療研修（屋久島、１名）（三重大学、奈良県立医科大学、和歌山県立医科大学の3大学連携による研修）
◇卒後臨床研修評価機構(JCEP)の更新サーベイを受審し、引き続き４年間の認証を更新
◇多職種連携チーム医療シミュレーションの実施
◇小児科入院患者の家族が滞在できる家族向けの滞在施設「ハーモニーハウス」の新設及び受入の開始
◇ドクターヘリを担当する医師を1名を増員
◇教授がミャンマー等へ赴き、教育的指導手術の実施（約80回）
◇特定集中治療室管理料1の施設基準取得に向けた体制整備
◇病院全体稼働額　対前年度で約5億円の増額

三重の力を世界へ

平成26年度(2014)の実績・その2

－ 業務運営・財務内容等の状況編 －

環　境

環境先進大学としての取組【P9 左(12)】

●「三重大学ブランドの環境人財」の育成
●ESD実践方法の一つでもある「MIEUポイント」（学生・教職員が個人で実施した環境・省エネ活動（個人の努力）を「見える化」する環境ポイント付与制度）について新システムの運用開始
●「持続発展教育(ESD)に関するユネスコ世界会議」のパートナーシップ事業として「ESD in 三重2014」の開催

⇩

◇MIEUポイント登録者数
（H25:382人（延べ登録者数1,122人）
→H26:458人（延べ登録者数1,855人））
登録活動件数（H25:4,364件→H26:8,204件）
◇三重県亀山市と連携した「オール亀山ポイント（ＡＫＰ）」の構築
◇環境ISO学生委員会が中心となり、リユース自転車の譲渡、古本市の開催
◇町屋海岸清掃（5回）及びAQUA SOCIAL FES!!in 松名瀬(2回)を開催
（約1,400人参加）
リユースプラザ（不要家電５１台を回収）
◇実績等による外部評価
・第6回エコ大学ランキングにおいて「５つ星エコ大学」（最高ランク評価）
・「三重大学環境報告書2014」が第18回環境コミュニケーション大賞「報告書部門」環境配慮促進法特定事業者賞を受賞（6回目の受賞）
・スマートキャンパス実証事業において、ソフト・ハード両面からの活動である創エネ、蓄エネ、省エネの取り組みを行うことにより、CO2を27.3%削減（平成22年度比）したことについて、省エネルギー大賞（経済産業大臣賞）を受賞

学長ガバナンス

学長のリーダーシップによる取組【P10左2、P15 左①】

●教授会の役割の明確化、学長のリーダーシップの強化、監事機能の強化等に向けた学内規則等の整備
●大学教員の年俸制導入（６６名（承継内職員の約10%））に向けた関連規程等の整備
●機動的な教育研究組織づくりを推進するため、教員組織の一元化についての検討
●国際的に活躍できる人財の育成や国境を越えた共同研究や教育への取組

⇩

◇「グローバル化に対応できる人財育成」のため設置する「英語特別プログラム」担当の特任教員を雇用
◇英語の自習システムとして新たなｅ－ラーニング英語教材を導入
◇従来から新入生全員が受験してきたTOEICのデータを集約し、有効活用していくため教養教育情報室を設置
◇バイオエンジニアリング国際教育研究センターにおいて、海外トップレベルの４つの研究大学から医学・工学・生物資源学連携の学際分野の共同研究者４名を迎え、４つの学際的かつ国際的な共同プロジェクトを開始

男女共同参画

男女共同参画への取組【P15 左②】

●男女共同参画事業への積極的な取組
●地域との連携による実践活動を行う人財の育成

⇩

◇本学の女性教員の比率：14.7%、女性職員の比率：64.8%
理事に１名、事務部の課長相当以上の職に５名、
経営協議会委員に２名
◇「男女共同参画基礎（前期）・実践（後期）」授業の開講
◇「ファザーリング全国フォーラムinみえ」において、本学主催のパネルディスカッション「産官学民の連携による日本を変えた男女共同とは～新しいカタチの組織・教育・生活～」の開催
◇三重県が本学及び地域の経済団体等と共に設置した「女性の大活躍推進三重県会議」に会員として加入し、活動を支援

法令遵守

昨年度指摘課題への対応及び公的研究費の不正使用・研究不正等防止に向けた取組【P26 右②・③】

●ＵＳＢメモリ紛失の再発防止、個人情報保護の適正な管理
●物品の不正転売再発防止
●公的研究費の不正使用・研究不正防止、研究者の倫理観保持・養成

⇩

◇個人情報の適正な管理についての全学的通知による注意喚起の徹底、「保有個人情報の外部への持出しに関する取扱い」の制定、暗号化機能付ＵＳＢメモリの配布
◇固定資産の定期監査、換金性の高い物品を中心に現物確認及び管理状況の確認の実施
◇三重大学研究倫理宣言の策定
◇「三重大学における公正研究の基本方針」の策定
◇「三重大学における公的研究費の管理・監査の基本方針」の策定
◇「三重大学における研究に関する研修会」6回開催

広　報

戦略的広報活動への取組【P22 左②】

●動画の充実、学生との連携、SNSの活用等を重点とした広報戦略を策定し、広報活動を実施

⇩

◇動画の充実
・学生と協働でリニューアルした附属図書館を紹介する動画の作成
・学生の企画による、「学長・役員紹介」、「留学生に聞いた日本文化」、「大学祭」の動画の作成
◇三重大学公式Facebookとtwitterの開設、運用開始
◇一般市民向け広報誌「三重大えっくす」増刷
・25,000部から55,000部へ増刷し、読者拡大を図り、これまでの配布先に加えて近鉄特急の座席背面ポケット、東京日本橋の三重県アンテナショップ「三重テラス」へ設置
（県外からのアンケート回答割合：昨年度比20%増）

総合防災訓練

大規模災害に備えた多様な防災・減災対策等への取組【P26 左①】

●新入生オリエンテーションにおいて学内の防災体制や学外避難先等について周知
●巨大地震による津波被害を想定した総合防災訓練の実施
●三重大学業務継続計画『MU-BCP《事務局版》』を策定し、非常時における業務継続・機能維持の方策を整備

⇩

◇総合防災訓練
・9月3日：　全学一体的な訓練（本学学生・教職員並びに陸上自衛隊や津市、尾鷲市、津警察署、津北消防署の担当者等総勢220名の参加）
実働訓練として消火訓練及びエレベータ閉じ込め者の救出訓練も実施
・12月8日：　本学学生・教職員並びに学外諸機関担当者等の参加による津波避難訓練及び図上訓練
（参加者数 津波避難訓練1,570 名 図上訓練230 名）の実施
◇藤田保健衛生大学との間で「災害時における病院間の相互協力・支援に関する協定」の締結

経費削減・運用収益確保

経費削減・運用収益確保への取組【P19 左②・③】

●省エネルギー対策による光熱水料の節減による管理的経費の抑制への取組
●東海地区国立大学法人事務連携による資金運用

⇩

◇外国人留学生寄宿舎整備について、外灯を含む全てにLED照明を採用
◇高野尾高圧架空線等改修工事については、トップランナー変圧器を導入（今後の光熱費の削減額は耐用年数期間で約720千円の見込）
◇統合地ボイラーの撤去工事を完了させたことにより、運転監視業務費・燃料費等について、年間約26,000千円の削減
◇他大学との協働した資金運用により、14,263千円の運用収益を確保

～三重の力を世界へ～

地域に根ざし、世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出す。
～人と自然の調和・共生の中で～

	教　育	学生支援	研　究	業務運営等
	○全学の教育関係の事項を取り扱う組織として教育会議及びその下に教養教育専門会議を設置 ○教養教育カリキュラムの2つの教育理念 「自律的・能動的学修力の育成」 「グローバル化に対応できる人財の育成」 ○「男女共同参画基礎（前期）・実践（後期）」授業の開講	○「三重大学学業成績等優秀学生及び交換留学生の授業料免除制度に関する規程」の制定	○研究力ステップアップ支援事業 （A）（2件300万円） （B）（3件300万円） （C）（20件700万円） 若手研究支援事業（10件400万円） ○科研費アドバイザー制度等の充実 科研費申請率：前年度比より8%増（件数39件の増）	○三重大学研究倫理宣言の策定 ○「三重大学における公正研究の基本方針」の策定 ○「三重大学における公的研究費の管理・監査の基本方針」の策定 ○「三重大学における研究に関する研修会」6回開催 ○個人情報の適正な管理について全学通知 ○全学的に「保有個人情報の外部への持出しに関する取扱い」の策定
リーダーシップ ガバナンス	○15名の専任教員による「教養教育機構」を本学初めての独立部局として発足、学長による機構長の指名	○英語の自習システムとして新たなｅ－ラーニング英語教材の導入 ○各種トレーニング機器を備えた「永井記念トレーニングルーム」の設置	○学部縦割りの枠組みを超えた“国際的コラボレーション”をとおした研究と教育を推進する組織「バイオエンジニアリング国際教育研究センター」の機能強化の取組への支援	○教授会の役割の明確化、監事機能の強化等に向けた学内規則等の整備 ○大学教員の年俸制導入（６６名（承継内職員の約10%））に向けた関連規程等の整備 ○機動的な教育研究組織づくりを推進するため、教員組織の一元化についての検討 ○東海地区国立大学法人事務連携による資金運用 ・他大学との協働した資金運用により、14,263千円の運用収益を確保
地域・防災	○教員免許状講習への総合大学としての多様なテーマの講習の充実に向けた全学的な取組 ○「みえ防災塾」を開講し、地域防災活動を積極的に推進できる人財を育成 ・みえ防災さきもりコース　15名修了 ・みえ防災コーディネーターコース　12名修了 ・みえ防災聴講コース　17名修了	○新入生オリエンテーションにおいて学内の防災体制や学外避難先等について周知 ○防災グッズ（防災ラジオ、懐中電灯、救急セット、乾電池、ロープ、手袋、防災リュック（ホイッスル含む）、ガムテープ等）の各合宿所への整備	○本学研究施設等について、学外の地域企業等の利用実績の向上 学外者利用率　H25：19% → H26：31%、 利用料負担金収入 H25：4,385千円 → H26：8,089千円 ○経済産業省の産学連携評価モデル・拠点モデル実証事業（モデル構築事業：地域企業との共同研究成果のグローバル展開を自治体との政策連動で加速させる産学連携拠点モデル）に採択され、モデルを構築し、検証	○総合防災訓練を2回実施 ・1回目：9月3日、全学一体的な訓練 ・2回目：12月8日、津波避難訓練及び図上訓練 ○三重大学業務継続計画『MU-BCP《事務局版》』の策定 ○「美し国おこし・三重さきもり塾」と「美し国おこし・三重さきもり倶楽部（さきもり塾修了者によるネットワーク組織）」が共同で、ジャパン・レジリエンス・アワード（強靭化大賞）2015にて、金賞（教育機関部門）を受賞
環境	○ESD実践方法の一つでもある「MIEUポイント」（個人の努力を「見える化」する環境ポイント付与制度）について新システムの運用開始 MIEUポイント登録者数 （H25:382人（延べ登録者数1,122人） →H26:458人（延べ登録者数1,855人）） 登録活動件数（H25:4,364件→H26:8,204件） ○「持続発展教育(ESD)に関するユネスコ世界会議」のパートナーシップ事業として「ESD in 三重2014」の開催 ○三重県亀山市と連携した「オール亀山ポイント（ＡＫＰ）」の構築	○3R活動 ・天津師範大学留学生へのリユース自転車の譲渡 ・古本市開催（回収した古本の無料譲渡） ・リユースプラザの開催（家電製品のリユース目的）不要家電51台を回収し、新入生へ譲渡	○スマートキャンパス実証事業を「スマートキャンパス」として事業継続を行い、再生可能エネルギー（太陽光発電設備、風力発電設備）、蓄電池設備、ガスコージェネ発電設備等を稼働	○町屋海岸清掃（5回）及びAQUA SOCIAL FES!! in　松名瀬（2回）を開催（約1,400人参加） ○外部評価 ・第6回エコ大学ランキングにおいて「５つ星エコ大学」（最高ランク評価） ・「三重大学環境報告書2014」が第18回環境コミュニケーション大賞「報告書部門」環境配慮促進法特定事業者賞を受賞（6回目の受賞） ・スマートキャンパス実証事業等への取組みにおいて、省エネルギー大賞（経済産業大臣賞）を受賞
国際	○インドネシア・パジャジャラン大学とのダブルディグリープログラムでは、両大学をテレビ会議システムで繋ぎ、入試面接、留学準備支援、遠隔授業の実施 ○招聘外国人教員による専門領域での教育・研究指導、英語による授業、海外留学への助言・支援	○「官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学ＪＡＰＡＮ日本代表プログラム～」 平成27年度前期（第2期）において学生1名の採用 ○海外留学支援制度 ・短期派遣（双方向協定型）プログラム1件、短期派遣（短期研修・研究型）プログラム11件の採択（平成25年度：4件）	○「若手研究者の海外研修支援制度」により、国際学会発表を支援 （38名：教員9名・学生29名） ○国際研究推進支援事業（1件100万円） ○海外トップレベルの４つの研究大学 （ハーバード大学、カリフォルニア大学サンディエゴ校、インディアナ大学、パデュー大学）から医学・工学・生物資源学連携の学際分野の共同研究者４名を迎え、４つの学際的かつ国際的な共同プロジェクトを開始	○外国人教員の受け入れに係る費用の学内予算措置による「外国人教員短期招へいプログラム」の導入（6か国から8名の教員を受け入れ）